

平成31年仕事始め式 市長訓示

平成31年1月4日（金）午前9時

市福祉健康センター・多目的ホール

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんにはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆さんには昨年も「元気な自立都市 越前」の創造に向け、それぞれの部署で市民福祉の向上や、市民と協働のまちづくりにご尽力をいただき、誠にありがとうございました。

さて、去年は本県で50年振りの「福井しあわせ元気国体」、並びに初めての「福井しあわせ元気大会」が9月29日～10月15日に開かれ、本市では国体の正式競技としてフェンシング・ソフトテニス・ソフトボール・軟式野球が、デモンストレーションスポーツとして武術太極拳とシルバーソフトバレーボールが、障スポではソフトボールが実施され、市民に大きな夢と感動を与えました。

国体・障スポの成功によって得られた多くの経験や感動をレガシーとして生かし、本年度末に改定する市スポーツ推進プランの推進はもとより、新年度には市教育振興ビジョンを改定し、「元気な人づくり」の推進をさらに図ってまいります。

さて、去年は越前市が進める「半世紀に一度のまちづくり」が着実に前進した1年でもありました。

まず、国体に向けて再整備を行ってきた武生中央公園が一連の工事を終え、同公園へのアクセス道路となる都市計画道路 河濯線も9月に供用を開始し、たけふ菊人形には過去最多の約25万人が来場しました。

新庁舎の建設についても、東部地域の防災・コミュニティの拠点として整備を進めてきた、あいぱーく今立が9月24日に竣工し、市民の交流の場として幅広い世代の市民に利用されています。

本年は10月末に本庁舎が完成し、11月には（仮称）市民センターがオープンする予定であり、あいぱーく今立についても引き続き、周辺に必要な都市機能の誘導を図るため、民間活力による整備の可能性を検

討してまいります。

北陸新幹線の整備についても、平成35年春の敦賀延伸に向け、市内の用地取得が昨年末に完了するとともに、南越駅(仮称)周辺の高架橋工事も着実に進み、鉄道運輸機構からは駅舎の実施デザインを年度内に決定すると伺っています。

先月21日には、南越駅(仮称)の周辺整備に向け、地元代表者や地権者等で構成する、まちづくり協議会が設立されました。

同協議会や県の代表者、学識経験者等で組織する、まちづくり計画策定委員会を今月にも設置し、南越駅(仮称)と北陸自動車道武生インターチェンジ、国道8号に近接した立地特性を生かし、経済情勢等も的確に踏まえた、南越駅(仮称)周辺のまちづくり計画を来年度に策定してまいります。

このように「半世紀に一度のまちづくり」が着実に進展する中、全庁を挙げて市総合戦略に基づく人口減少対策・定住化促進対策を推進した結果、市内企業の事業拡張に伴う雇用の増大と相まって、本市の人口は

1月1日から12月1日までに177人増え、2年連続の人口増加を達成しました。

その一方で、深刻な労働力不足が続いているため、外国人労働者が急増し、12月1日現在、外国人市民が4,399人と総人口の5.3%を占め、教育・保育環境の整備、病気や災害時の支援など、外国人市民の生活全般にわたる課題が生じてきました。

そこで、本年度末に向け、市多文化共生推進プランの策定作業を進めており、市内企業や仁愛大学などの協力を得て、日本人市民と外国人市民が「お互いの国籍や文化、生活習慣の違いを認め合い、尊重し合って、共に支え合う社会」を他の自治体に先駆け、築いてまいります。

併せて、新年度に改定予定の市総合戦略に一層の人口減少対策や定住化促進対策を位置付け、さらなる取組みを進めてまいります。

地域福祉の推進については、国が進める「我が事・丸ごと」の地域づくりを目指して、本年度末に向け、福祉分野の上位計画に位置付けられた市地域福祉計

画の改定作業を進めており、市内全地区において、地域でできることは地域で解決する仕組みづくりを進めてまいります。

また、禁煙や受動喫煙の防止など、たばこ対策を積極的に推進するため、5月31日に北陸3県の自治体で初となる「たばこ対策宣言」を行うとともに、12月11日には126人も市内企業等の代表者の賛同を得て「越前市輝く女性活躍応援団」を設立し、女性の活躍支援などの取組みを宣言したところであり、引き続き推進を図ってまいります。

さらに、本年は10月より、3～5歳児の幼児教育・保育の無償化が予定されているため、新年度上半期に市子ども・子育て支援計画と市子ども・子育て支援事業計画を改定し、待機児童の発生抑制に向けた対策を計画的に実施してまいります。

去年は、子どもを生涯のテーマとして描き続けた、本市生まれのいわさきちひろさんの生誕100年の記念の年であり、ちひろ美術館と連携し、「ちひろの生まれた家」記念館や武生公会堂記念館での特別展の

開催をはじめ、12月のお誕生会イベントなど、年間を通してちひろさんの生誕地・越前市を強くアピールしました。

また、紙祖神・川上御前を祀る岡太神社・大瀧神社では5月に「千三百年大祭」が催され、紙の文化博物館では記念事業として特別展を開催しました。

この他、伝統工芸の振興に向けては、8月24日に越前打刃物振興施設「刃物の里」がオープンするとともに、同月25・26日には伝統工芸やクラフトの魅力を発信するイベント「- ECHIZEN - 千年未来工芸祭」を開催しました。

「越前市ふるさと大使」として、本市のまちづくりに温かいご支援をいただいた、かこさとし氏を偲ぶ取り組みについては、全国巡廻展のスタートと位置付けられた「かこさとし展（仮称）」を本年3月から武生公会堂記念館で開催するとともに、武生中央公園には4月に「かこさとしを偲ぶ碑」を設置する予定です。

コウノトリが舞う里づくりに向けては、県が白山地区で飼育しているコウノトリの「ふっくん」と「さっ

ちゃん」が4月に産卵を行う一方、4月下旬から大塩町に2羽の野外コウノトリが飛来し、人工巣塔に巣を設けて産卵しましたが、残念ながら孵化には至りませんでした。

新年度は市食と農の創造ビジョンと市コウノトリが舞う里づくり戦略の改定を予定しており、コウノトリをシンボルに、食と農の創造にさらに取り組んでまいります。

さて、去年は自然災害が相次いだ1年でもあり、2月4日から県内は冬型の気圧配置が強まり、強い寒気が上空に流れ込んだため、本市は平成23年1月以来となる7年振りの大雪に見舞われました。

その後も雪は降り続き、2月13日午前11時に積雪が130センチメートルに上り、平成元年の統計開始以降、観測史上1位を更新しました。

その後も「平成30年7月豪雨」や台風21号などの自然災害が相次いだことから、本年も防災態勢の一層の強化に努めてまいります。

併せて、万が一の災害に見舞われても健全財政を維

持できるように、引き続き市行財政構造改革プログラムⅣの推進を図るとともに、新年度は市行財政構造改革プログラムⅤの策定を行ってまいります。

以上の通り、昨年も市政の各分野において、着実な成果を上げることができた1年でした。

これも偏に、市議会や市民の皆様のご支援、並びに職員の皆様のご尽力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

本年は5月1日から新元号となり、10月末には本庁舎が完成し、年末には引っ越し作業を行うなど、新たな時代を迎える1年となります。

一連の「半世紀に一度のまちづくり」と人口の増加を千載一遇の好機と捉え、本年も長期的な視点から「人づくり、ものづくり、まちづくり」に取り組み、「元気な自立都市 越前」の創造を目指してまいります決意です。

職員の皆さんには、本市の将来に大きな夢を描きながら、本年もそれぞれの部署で職務に精励し、「現地現場主義」の実践を通して市民のニーズを的確に汲み

取り、市民の期待に応える市政の推進にご尽力をお願いいたします。

その際、毎年お話ししているように「着眼大局、着手小局」を心掛け、全職員が20年先、30年先の越前市を見据える大局観を持つ一方、目の前の課題に丁寧に取り組み、当たり前前的事業を確実に実践する風土を庁内に築いていきたいと考えています。

併せて、前例にとらわれることなく、従来の思考や手法を大胆に見直していくため、若手職員や女性職員が積極的な提案を行うとともに、その提案が活かされる柔軟で明るい職場をつくっていききたいと思えます。

結びに、本年も皆さんが心身ともに健康で、市政の発展と市民福祉の向上のために大いに活躍されることを祈念し、「平成31年 仕事始め式」の訓示といたします。

本年も、よろしくお願ひいたします。